

リキ。測水器械ノ内ふらゐす型流速計ハ係數ノ變化割合ニ少ク廻轉部タル車翼ノ損傷スルコト少ク成績良好ナリシカ流水時ニハあゐすくりむ狀ノ水雪廻轉翼ニ附著シテ之カ廻轉ヲ阻止セシコトアリ、森式流速計ハ構造簡單ニシテ取扱ニ便ニ且流水時ト雖廻轉ヲ阻止セラルルコトナキ特質ヲ有シ本邦ノ如キ比較的水深ノ大ナラサル河川ニハ蓋シ適當ノ器械ナリトス

第二章 下北半島諸水系

第一節 概説

本州北端下北半島ノ中央ニ聳ユル高峯朝比奈嶽九四三米ヲ中心トシテ之ヨリ流下スル水系三アリ一ハ山ノ西側ニアリテ南流スル川内川、一ハ山ノ北側ニアリテ東流スル大畑川他ハ山ノ東南ヨリ東流スル正津川ニシテ其ノ流域全島ノ半ヲ占ム。川内川ト大畑川トハ流路殆ト同シク約一〇里、流域面積ハ川内川ハ一一方里、大畑川ハ一四方里アリ、正津川ハ前二者ニ比スレハ遙ニ小ニシテ流域面積三万里半流路四里ニ過キス。地質ハ各川トモ下流部ニ僅少ノ

第三紀層アル外全部火山岩ナリ。山林ハ下流部各所ニ猫額大ノ共有林地アル外ハ全部國有林ニ屬シ林況甚タ良好ニシテ二、三百年ヲ經過セル針闊樹密生セリ樹種ハ羅漢柏、檜、山毛櫸等ヲ主トシ幹長キ良材タリ原野耕地ハ下流部ニ存スルモ甚タ僅少ニシテ云フニ足ラス。氣象状態ハ觀測所少キヲ以テ其ノ詳細ヲ知ルニ由ナキモ降水量ハ脇野澤及佐井ニ於テ一、〇〇〇耗、田名部ニ於テ一、三〇〇耗ナレハ青森、岩手兩縣ノ東海岸部ト大差ナク氣温ハ田名部ニ於テ年平均九九度ナレハ是亦伯仲ノ間ニアリ其ノ一般状態ハ本州ヨリモ寧ロ一葦帶水ノ北海道ニ類スルモノアリ

湖沼トシテハ正津川上流ニ恐山湖アリ、温泉ハ前記各川ニ沿ヒ湧出スルヲ見レハ本半島中他ノ河川ニ於テモ湧出少カラサルヘシ。河川ノ勾配ハ正津川最急ニシテ平均五〇分ノ一ナルモ他ノ二川ハ割合ニ緩流ナリ河岸ハ正津川ヲ除クノ外河幅廣ク砂礫埋積スルヲ見ル

流量ハ各川トモ測水所ヲ設置セザリシヲ以テ其ノ多寡及變化ヲ知ルコト能ハサレトモ森林状態良好ナルト地質火山岩ニ屬スルヲ以テ水量ノ増減甚シカラス且濁水量ノ如キモ雨量少キ割合ニハ豊富ナルヘシ

ハ軌道ニヨレリ

本島ハ殆ト全部山林地ニシテ都會トシテハ大湊及田名部町アルノミニシテ之ヲ除クノ外ハ殆ト漁村ニ過キササルヲ以テ今日迄電氣ノ需用少ク水力事業モ其ノ企畫セラレタルモノ僅ニ二、三ヲ出テス現時ニ於テハ全島ハ殆ト田中鑛業株式會社安部城鑛山發電所ヨリ電燈電力ノ供給ヲ受クルノ状態ナリ。水力利用ノ見込アルハ正津川ヲ最トスルモ硫黃質ヲ帶フルノ缺點アリ他ノ二川ハ勾配少ク一、二ノ水力地點アルニ過キス

第二節 川内川水系

一、流域 本川ハ下北半島ノ西南部ニ位シ源ヲ半島ノ西方ニ聳ユル福浦山ニ發シ小荒山連山ヨリ發スル諸溪流ヲ合セテ東流シ字畑ニ至リ北方ヨリ流下シ來ル湯ノ川ヲ容ル、湯ノ川ハ湯ノ川越ヨリ發シテ東流シ甚助川及小支流湯ノ川等ヲ合セ南ニ轉シ畑ニテ本流川内川ニ合ス、湯ノ川ヲ合セタル本流ハ畑ヨリ方向ヲ南ニトリ川内ニ至リテ陸奥灣ニ注ク全長凡ソ一〇里流域面積一四万里餘アリ、大部分火山岩ニシテ下流部字川内附近ニ第三紀層アリ

テ中ニ僅少ノ御料林ヲ含ミ林況密ニシテ甚ダ良好ナリ、其有林ハ下流部各所ニ點在スレトモ一方里半ニ充タス樹種ハ山毛櫸、檜、杉、赤松、朴及其ノ他ノ雜木ナルカ、二、三百年ヲ經シモノアリ未タ斧鉞ヲ入レサル所少カラス年々伐採植林スル面積一、二方里ニシテ専ラ官行ニヨリ新ニ植栽スルモノハ羅漢柏、杉、赤松等ノ針葉樹ナリ。流域内ニ安部城鑛山アリ煙害ノタメ附近ノ樹林ノ枯死セルモノ少カラスソレ等ノ地ニハ「アカシヤ」大島櫻ノ如キ煙害地ニ適當セル樹木ヲ植栽セリ。原野及耕地ハ甚タ少ク半方里ニ足ラス

二、河川狀況 本水系ハ兩岸山勢緩ナル處多キヲ以テ耕作適地少カラス水流急ナルハ本流川内川ニアリテハ板家戸澤ヨリ矢櫃澤及「ヤスヤ」澤ヨリ岩谷澤ニ至ル間支流湯ノ川ニアリテハ字湯ノ川附近ニシテ岩盤露出セリ其ノ他ノ部分ハ勾配比較的緩ニシテ河床ハ砂礫ヲ以テ覆ハル

三、水利及治水 本川流域ニハ水田ナキヲ以テ灌溉用水ノ引用セルモノナシ、木材搬出ニ對シテハ畑ヨリ上流ハ河川ヲ使用スレトモ同所ヨリ下部ハ専ラ軌道ニヨレリ目下軌道ハ畑ヨリ湯ノ川迄ノ延長線ノ工事中ナリ。惡水トシテハ安部城鑛山精鍊所ヨリ排出スルモノアリ又支流湯ノ川ニ鑛泉湧出シ魚類等棲息セスト云フ。治水、舟筏等ノ關

係ナシ

水力事業トシテハ安部城嶺山ノ經營ニカカル既設發電所一アリ

四、水力地點 本川中利用シ得ヘキ範圍ハ板家戸澤ヨリ矢櫃澤ニ至ル約一里餘ノ間ニシテ落差二〇〇尺アリ

川内川水力地點表

水量、落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地 號點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水路	流域積	能發電率	年平均馬力數	等級
一五七	川内川	番外一	青森縣下北郡川内村 板家戸澤	同郡川内村 矢櫃澤	洪水 * 三二 低水 * 四六 平水 * 六二	* 二〇〇	七一〇 一、〇二一 一、三七六	一八〇〇	三三三	一〇〇〇 九五五	七〇 九七五	甲

水力地點ノ説明

順位一五七 本地點ハ板家戸澤ノ合流點附近ニ取入堰ヲ設ケ右岸ニ沿フテ導水シ矢櫃澤ニ於テ放水ス。本地點ハ山勢緩ナルヲ以テ水路ハ開渠ニヨルコトヲ得ヘク岩質硬カラサルヲ以テ隧道トナストモ多大ノ困難ハナカルヘシ但シ材料運搬ハ畑ヨリ上流ハ道路狹キヲ以テ新ニ開鑿スルヲ要ス

ルコト約二里西又澤及湯ノ又澤ヲ合セ藥研附近ニテ鱒瀧澤釜澤ノ水ヲ加ヘ猶東流スルコト約三里大畑ニ至リ大平洋ニ注ク全長約一〇里流域面積一一方里餘アリ。地質ハ大部分火山岩ニシテ下流部ニ第三紀層アリ

第三節 大畑川水系

一、流域 本川ハ半島ノ東北部ニアリ源ヲ西方ノ高峯ニ發シテ北流シニベ澤、彌一郎澤等ノ諸溪流ヲ合セテ東流ス

ニ溫泉湧出スレトモ河川水質ニ影響ヲ及ホスニ至ラス

テ水流急ナラス小目名ヨリハ著シク緩流トナル

噴出スルアリ藥研ニハ明礬泉ノ湧出スルアレトモ其ノ影響著シカラス

三、水利及治水 本川流域ニハ下流部ヲ除クノ外地地ナク灌溉用水ノ引用セルモノナシ木材ノ搬出ニハ藥研ヨリ

水力事業トシテハ大湊電氣興業株式會社ノ企畫ニカカル許可地點三アリ

上流ハ河川ヲ利用シテ流下スレトモソレヨリ下流ニハ森林軌道敷設セラレアルヲ以テ専ラ軌道ニヨレリ舟楫ヲ通スルハ小目名ヨリ下流ノミ

四、水力地點 本川中利用シ得ヘキ範圍ハ前記急勾配ノ箇所ナリトス

治水、漁業等ノ關係ナク惡水トシテハ湯ノ又澤ニ硫黃ノ

大畑川水力地點表

順位(一)ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ
水量、落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地 號點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水路	流域積	能發電率	年平均馬力數	等級
(二五八)	大畑川	番外一	青森縣下北郡大畑村 三階瀧	同郡大畑村 湯ノ又澤	洪水 * 三八 低水 * 五四 平水 * 七四	* 二〇〇	八四四 一、一九九 一、六四三	一八〇〇	三三四	一〇〇〇 九五五	八四四 一、四四五	甲
(二五九)	同	番外二	青森縣下北郡大畑村 湯ノ又澤	同郡大畑村 五根山	洪水 * 六三 低水 * 九〇 平水 * 一二二	* 一五四	一、〇七七 一、五三八 二、〇八五	一八〇〇	六五〇	一〇〇〇 九五五	一〇三三 一、四六九	甲

水力地點ノ説明

順位二五八 本地點ハ三階瀧ヨリ左岸ニ取入レ湯ノ又

ニ引水シ五根山ニ放水ス

澤ニテ放水ス

下流地點ノ工事材料運搬ニハ林用軌道ヲ利用シ得ヘク上流地點ニハ軌道ナキモ村道開鑿セラレアルカ故ニ物資ノ運搬ニハ不便ナカルヘシ

順位一五九 湯ノ又澤ノ合流點附近ニ堰堤ヲ設ケ左岸

第四節 正津川水系

一、流域 本川ハ半島ノ中央部ニアル恐山湖ヨリ發シテ東北ニ流レ太平洋ニ注ク全長凡ソ四里流域面積三方里半形状狹長ナリ大半火山岩ニ屬シ下流部ニ第三紀層及第四紀層アリ

山林ハ中流以上殆ト全部國有林ニシテ中ニ僅少ノ御料林アリ羅漢柏、杉、山毛櫸等樹幹長大一〇〇年内外ノ樹齡ヲ有スルモノ密生繁茂シ狀態頗ル良好ナリ中流以下民有林ハ殆ト伐採セラレテ大樹ナク多クハ原野ナリ

本川上流恐山湖ハ海拔七〇〇尺ノ高地ニアル火口湖ニシテ形状圓形ヲナシ面積〇・一六方里其ノ集水面積ハ一・八方里ニシテ湧水頗ル多シ

二、河川狀況 兩岸山勢峻峻ノ間ヲ轉々屈折シテ流レ關

正津川水力地點表

順位(一)ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ
水量、落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	互水長路	面積積	能發電率	年平均馬力數	等級
(一六〇)	正津川	一	青森縣下北郡大畑村 正津川八瀧澤 泉澤	同津郡八瀧澤 大畑村	湧水 * 一九 低水 * 二六 平水 * 三五	* 二九三	六一八 八四六 一、一三八	二四〇〇	一八九	一〇〇・〇 九五・五 八四・一	六八 八〇八 九五七	甲

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	互水長路	面積積	能發電率	年平均馬力數	等級
(一六一)	同	番外一	青森縣下北郡大畑村 正津川八瀧澤	同津郡下大畑村 小畑村	湧水 * 二〇 低水 * 二八 平水 * 三八	* 一七五	三八九 五四四 七三八	二二〇〇	二〇五	一〇〇・〇 九五・五 八四・一	三八九 五〇〇 六二二	乙
(一六二)	同	番外二	青森縣下北郡大畑村 正津川下小畑村	同津郡大畑村 關根橋	湧水 * 二六 低水 * 三七 平水 * 五〇	* 一〇〇	二八九 四一一 五五五	二四〇〇	二六九	一〇〇・〇 九五・五 八四・一	二八九 三九三 四六七	丙

水力地點ノ説明

順位一六〇 泉澤合流附近ヨリ取入レ左岸ヲ八瀧澤ニ導キ放水ス

順位一六一 八瀧澤ヨリ左岸ニ沿ヒ下小川ニ至リ放水ス

順位一六二 下小川ヨリ右岸ニ引水シ關根橋ニテ發電ス。各地點トモ全部隧道トス

恐山湖口ハ幅三間内外ニシテ河床ハ平坦ナル岩盤ヨリ成ルカ故ニ本川ヲ横斷シテ堰堤ヲ築造セハ容易ニ湖面ノ水位ヲ數尺高メ貯水量ヲ増加スルコトヲ得ヘシ

今湖口ノ水面ヲ上昇シタル後南方屏風山、釜臥山ノ東麓ヲ大湊迄導水シテ發電セハ前記三地點ト殆ト同一ノ長サノ水路ヲ以テ數百尺ノ落差ヲ得且大湊ヘノ供給ハ送電線ノ距離ヲ短縮スルヲ以テ利益ナラン

根橋ニ至リテ漸ク平地ニ出ツ關根橋マテ勾配甚タ急ニシテ約五〇分ノ一ヲ保テリ河床ハ中流以上ハ殆ト岩盤ナルカ下流部ハ砂礫ヲ以テ覆ハル。本川ノ水ハ主トシテ湖水ヨリ發スルモノナルカ故ニ四時ノ變化極メテ少シ

三、水利及治水 本川流域ニハ耕地ナキヲ以テ灌漑用水ノ引用セラルルモノナク流木亦行ハレス其ノ他治水、舟筏、漁業ノ關係ナシ唯恐山湖畔及附近ニハ硫黃ノ噴氣孔甚タ多ク數箇所ニ硫黃泉アルカタメ流水自ラ硫黃質ヲ帶ヒ水量比較的多キニ拘ハラズ多少白色ヲ呈セルヲ見ル。許可地點三アレトモ未タ起工スルニ至ラス

四、水力地點 利用シ得ヘキ範圍ハ湖口ヨリ關根橋ニ至ル約三里ノ間ニシテ落差約六〇〇尺ナリ但シ本川ノ水ハ硫黃質ヲ帶フルカ故ニ利用ニ當リテハ豫メ水質ヲ調査シ適當ノ處理方法ヲ講スルヲ要ス

第三章 奥入瀨川水系

一、流域 本川ハ陸奥國東中央部ニ位シ中央脊梁山脈ノ重鎮八甲田山群ノ峯巒中ニ介在圍繞セラルル山間湖十和田湖ニ發シ北流スルコト約三里、字燒山ニ於テ俄ニ東方ニ轉シ幌内、黃瀬、萬中里ノ諸溪流及熊ノ澤川ヲ合セ大字三本木ノ南方ヲ過キテ百石村ニ至リ太平洋ニ注ク流路延長約一六里ナリ。流域ハ上北郡ノ南部即チ法與澤村、四和村、六戸村、下田村、百石村ノ全部並三本木町、藤坂村、戸來村、倉石村、川内村及市川村ノ各一部ヲ占メ面積五三方里アリ形状不規則ナル三角形ヲナシ土地一般ニ高燥ナリ、概シテ流域ノ南北兩部ニ峻嶺屹立シ中央盆地地形ヲナスト雖地形ノ大勢ハ東方ニ傾斜ス法量ヨリ下流ハ地勢廣濶トナリ三本木ニ